

■読みに困難のある子どもへの実践事例

効果的にICTを活用して特別支援教育の充実を図る

栃木県鹿沼市立みなみ小学校

富永 由紀子

はじめに

本校はマルチメディアDAISY図書を活用して、今年で3年目になります。在籍220名の児童の中には、外国とつながりのある子どもや児童養護施設から通学する子どものほか、特別な支援を必要とする子どもが少なからずいます。

これらの児童の中でも「読み」に困難を抱える子どもたちを対象として、積極的にマルチメディアDAISY図書を活用して指導に当たっています。(iPadやパソコンを用いています。)

「読み」に困難のある子どもたちは紙ベースの学習から多くの情報を得ることが難しく学習に支障をきたしたり、語彙の少なさから子ども同士のコミュニケーションにも消極的になったりする傾向が見られました。

それらの子どもたちに対して、目的を明確にし、マルチメディアDAISY図書を活用することで一人ひとりの子どもたちに成果が見られましたので、ここでは、実践のまとめとしてどのような場面でどのように活用したのかについて記すこととします。

授業での活用

特別支援学級に在籍する子どもたちや日本語指導教室で指導を受ける子どもたちは、多くの場合「読み」に困難を抱えています。

困難の状況は学年や個人によって千差万別なので、一人ひとりの読みのスキルや教科学習の補助情報の獲得状況に合わせて、指導目的や指導内容、教材などを選択することが大切だと思います。指導者の意図を明確にして教材を選択し、指導したところ効果のあった内容を5つに分けてまとめました。

(1) 読みの自動化を目的とした指導 (1人1台)

1年生や外国籍の子どもたちに対して、ひらがななどの文字を習得した後、逐次読みはできるものの読んだ内容を理解するためには、できるだけ流暢に読むようにする必要があります。認識した文字から音を想起し、それらの音の組み合わせから意味を理解していくことは、子どもたちにとって相当な困難を伴う作業です。

そこで、本校では文字習得の初期段階にある1年生や2年生にMIMの指導^{*}をし、それらの指導に加えて、マルチメディアDAISY図書も活用しています。MIMのサードステージに位置している子どもたちにとっては、読みの自動化がしにくく、単語などのまとまりでは読めるものの、節単位・文単位・文章単位となると難しいものです。そこでマルチメディアDAISY図書を活用することで、ハイライトされた文字を一人ひとりの読みのスピードに合わせて再生することで自動化でき、楽しく有効に学習を進めることができました。とくに『海の中をのぞいてみよう』『どーこだ!!』は、子どもたちも非常に気に入り何度も活用しました。



写真1

* MIM (Multilayer Instruction Model)
早期の読み能力、とくに特殊音節の正確で素早い読みに焦点を当てた指導。

(2) 語彙の拡充を目的とした指導 (1人1台)

「読み」に困難さがある子どもたちの中には、読書の機会が減少する傾向にあるため、「語彙」がなかなか増えにくい状態にあります。

それは学習するとき使用する「学習言語」だけでなく、日常生活のさまざまな場面で使用する「生活言語」も増えにくいのが現状です。

また、物の名前なども正確に記憶できていないことも多いのが現状です。日本の昔話シリーズ(『つるのよめさま』『ももたろう』『わらしべちょうじゃ』)を通して、マルチメディアDAISY図書を聞かせながら、言葉の意味を確認していく指導を行いました。

すると、感情を表す言葉や状態を表す言葉が少しずつ増えていき、友達との会話の精度が増していきました。文脈の中の言葉の使い方を聞くことで、語彙力が向上したのだと思います。とくに低学年においては、効果が高かったように感じています。

(3) 自閉症児・LD児への漢字指導 (1人1台)

自閉症児やLD児の中には、「読み」に苦手さを感じるだけでなく、「書くこと」にも苦手さを感じる子どももいます。そのことが顕著に表れるのは漢字の習得です。

そこで、対象児には『漢字のかんじ』を活用しながら、楽しく漢字を覚えられるように指導しました。障害のある子どもたちにとっての漢字習得はあまり楽しいものではなく苦労も多いため、進んで学習したがるということが多いのですが、マルチメディアDAISY図書を活用することで進んで学習したいという気持ちをもつことができました。



写真 2

(4) 学び合いを目的とした指導 (ペアもしくは少人数で1台)

本校は子ども同士の「学び合い」を学校課題にしていますので、少人数の子どもたちで同じ教材を学び、ペアやグループでその教材について話し合い、内容理解を深めることができるような場を設定して指導しました。

上学年の子どもたちにもわかりやすく楽しい教材として、『キャンプでカレーライスを作ろう』を選択すると、基本編・火起こし編・はんごう編・カレーライス編で、それぞれが今まで体

験したことや知らなかったこと、気をつけなければならないことなどが話題となり、効果的な話し合いや学び合い活動をすることができました。通常の学級の授業ではあまり発言しない子どもたちからもさまざまな意見や考えが発表され、学び合うことができました。

また、マルチメディアDAISY図書使用の前後に話し合い活動をするによって、教材の内容を理解する力が向上し、他の学習の場面でも生かせるようになりました。



写真 3



写真 4

(5) 朝の読書や休み時間での活用 (1人1台)

朝の読書は、子どもたちの情操教育を担うだけでなく、子どもたちの想像

力を高めたり、本を読むことの楽しさを知ったりする良い機会です。しかし、「読み」に困難さのある子どもたちにとっては、自分の力だけで思うように本が読めず楽しい時間となっていないこともあります。

そこで、読書の楽しみを目的としてマルチメディアDAISY図書を活用しました。自分の読みたい本を自分で選択して、マルチメディアDAISY図書を活用することで他の本も読んでみたいという気持ちが沸き起こり、休み時間にも読書を楽しむ姿が見られるようになりました。

低学年の子どもには『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ』『みけねレストラン』を、中学年の子どものには『大どろぼうは おかしなサンドイッチやさん』『おばけ屋のおばけすいか』を、高学年の子どもには『未来をつくる君たちへ』『古都 京都のたび』を繰り返し活用しました。子どもたちは、同じお話を繰り返し聞いて楽しんでいました。

考察

「読み」に困難さのある子どもたちは、多くの場合「読む」ことから情報を獲得する機会が減少します。その減少に伴って、「語彙」や「情報」「知識」などを得る機会も減少してしまうことが多いのも現状です。

しかし、本校での実践のように、授業や朝の読書などでマルチメディアDAISY図書を有効に活用することによって、「読み」に困難さのある子どもたちに「自分の学び」や「読書の楽しみ」や「学び合い」の機会を与えることができるのではないかと思います。

「読みにくさ」を「学びにくさ」と同義にさせないような配慮が学校教育の現場には必要であり、長い人生の中で学び続けることのできる子どもたちが一人でも多く育ててほしいと願っています。また、一人ひとりにとっての学びが保障できるようにしていきたいと考えています。

そのためにもマルチメディアDAISY図書をどのような場面でどのように活用していくかは、指導者である教師がきちんと目的意識をもち、一人ひとりの子どものに合わせて指導内容や教材を選択することでより有効になっていくのではないのでしょうか。

今後の期待

子どもたちに人気のあるお話シリーズなどが出版されることを望みます。

また、図鑑など総合的な学習の時間の調べ学習に使える本、社会科や理科の学習の補助教材となるような本が出版されることを望みます。